

平成25年度補正予算による継続課題に係る継続 評価書

研究機関 : (株)日立製作所

研究開発課題 : 超高速・低消費電力光ネットワーク技術の研究開発
課題 I (d) マルチコアファイバ光接続技術

研究開発期間 : 平成 24 ～ 26 年度

代表研究責任者 : 坂本 健一

■ 総合評価 : 適

(評価点 20 点 / 25 点中)

(総論)

引き続き研究開発を推進することが適当。

(コメント)

- 計画通りに進捗しており、今後も十分な成果が期待できるが、国内外の動向を見極めつつ、国際競争力の強化を期待する。
- 課題間連携が問題なく機能するかどうかを実証実験で徹底的に精査して頂きたい。
- 目標は達成見込みとのことであるが、検討会では具体的な説明が乏しかった。最終年度の動作実証実験における成果、および将来の標準化活動に向けての活動を期待する。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

計画通りの成果が得られ、一部に進歩的な成果等が認められる。

(コメント)

- 計画通りの成果が得られているが、長距離系と短距離系におけるマルチコアファイバの仕様の違いを明確化するとともに、標準化活動の推進を期待する。
- ファイバ断の模擬実験で切り替え動作の完了時間が 50ms 以下になることを実証したことは高く評価できる。
- 目標は達成したとのことであるが、具体的な説明が乏しかった。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

予算計画書あるいは適切な理由に基づく支出変更理由に則り、有効、効率的かつ適正な執行が行われている。さらに、資金管理などの面で優れた取り組みが認められる。

(コメント)

- 研究費は、ほぼ当初の予算計画通り執行されている。

(3) 研究開発実施計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

実行可能であり有効かつ効率的な計画である。

(コメント)

- 動作検証・性能検証、課題間連携を含めて、実行可能な計画になっている。
- 実施計画は過去の研究開発達成状況を踏まえて立案された妥当な内容となっている。
- 最終年度での成果達成にむけた妥当な実施計画である。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

有効かつ効率的な予算計画が組まれており、積算額も妥当である。

(コメント)

- 目標達成に向けて有効かつ効率的な予算計画が組まれており、積算額も含めて妥当である。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

適切な実施体制が組まれており、計画通りの事業進捗が見込まれる。

(コメント)

- 課題間の連携を含めて、適切な実施体制が組まれており、計画通りの進捗が見込まれる。